

＜ダイキン「第16回 現代人の空気感調査」＞
全国600名に聞いた「今夏の節電と空気」に対する意識調査①

**家計節約よりも社会貢献
震災後“節電ビギナー”が全国で2割以上**
～「震災後の節電意識」編～

ダイキン工業株式会社は、東北・東京電力管内エリア（以下、東北・関東エリア）とその他エリアの20代～70代の男女600人を対象に「今夏の節電と空気」をテーマにしたアンケートを実施しました。

「現代人の空気感調査」は、「空気」に関する現代人の意識を浮き彫りにすることで、日頃意識されにくい「空気」について、多くの方々に興味と関心を持っていただくことを目的に、2002年から実施してきました。

3月11日に発生した未曾有の大震災、それに伴う東北・東京電力管内の電力供給不足、さらには中部電力の浜岡原子力発電所の運転停止が決定され、今日本は、エネルギーそのものの在り方について考える局面にあります。

16回目となる今回の調査は、そのような社会的背景を受け、震災後初めての夏を迎えるにあたって、人々の節電や空調に対する意識がどう変化したのかを浮き彫りにすることを目的としました。

調査の結果、東北・関東エリアだけでなく、日本全体として節電意識が広がっており、夏に向けて、節電を“明るく、前向きに”捉えていることが分かりました。また、震災後、新たに節電に目覚めた“節電ビギナー”は全国で2割以上となり、今夏の削減目標達成に向けて、エアコンの節電への期待が高まっていることも浮き彫りになりました。

なお、今回の調査の中では設問が多岐に渡るため、「夏の暑さ対策」「今夏のエアコンの設定温度」「エアコンの節電対策」など、エアコンにまつわる調査結果は別途「エアコンの節電対策」編としてまとめ、紹介しています。

本調査の主な内容は以下の通りです。

I. 日本全国に広がる意識、節電は“明るく、前向きに” P.2-4

- I-1) 全国の節電意識、「意識している」9割以上、震災後に節電を意識した“節電ビギナー”2割以上
- I-2) 節電の影響、全体的にポジティブ傾向。「悪くなった／困ったこと」で“特になし”が約4割
- I-3) 女性は男性よりも、「よかったこと」を多く見出し、ポジティブに捉える傾向

II. 家庭での削減目標、切実な問題と受け止め、意識高まる P.5

- II-1) 東北・関東エリアの4割は、家庭での削減目標の数値“15%”を認知

III. 削減目標15%達成するには“節電ビギナー”に期待！？ P.6-7

- III-1) 震災後、家計節約よりも、社会貢献のために節電に取り組む“節電ビギナー”
- III-2) 自己評価&削減目標低めの節電ビギナーが、15%達成のカギ！？

IV. 夏に向け、エアコンの節電効果に期待高まる P.8

- IV-1) 夏の節電対策、効果がありそう、トップは「エアコン」89.7%

I. 日本全国に広がる意識、節電は“明るく、前向きに”

I-1) 全国の節電意識、「意識している」9割以上、震災後に節電を意識した“節電ビギナー”2割以上

震災の影響を受け、実際に電力供給に支障が生じている東北・関東エリアとその他のエリアでは、節電への意識に違いがあるのでしょうか。

全国を対象に、現在、節電を意識しているかを聞いたところ、「意識している」と答えた人は、東北・関東エリアでは99%、その他のエリアでも90%以上と、非常に高い結果となり、エリアに関係なく、全国に節電意識が広がっていることが分かります。東北・関東エリアの特徴としては、もともと節電意識の高い人が震災後、さらに節電の意識を強くしているといえます。

また、調査の内訳をみると、震災以前から意識をしている“節電ベテラン”に加え、今回震災をきっかけに意識をするようになった“節電ビギナー”が2割もいることが分かりました。

今後の節電の継続性について聞いたところ、エリアに関係なく、8割以上の人々が、今年に限らず、今後も節電を継続したいと答えました。一過性のブームにとどまらず、日本人が節電に、より高感度になり、将来的にも節電の取り組みが持続する可能性は高いと考えます。

図1: あなたは現在、節電を意識していますか? <n=624>

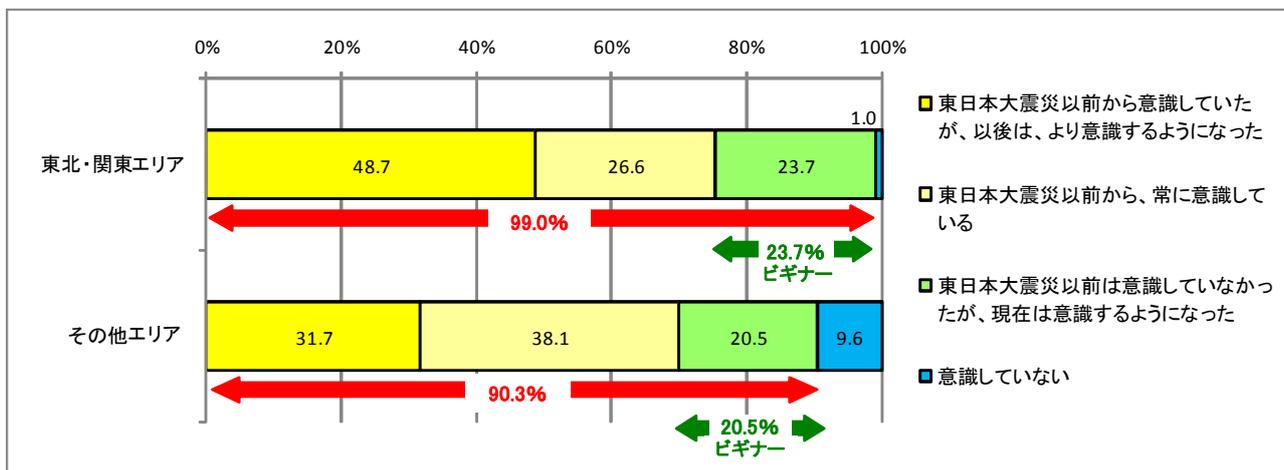
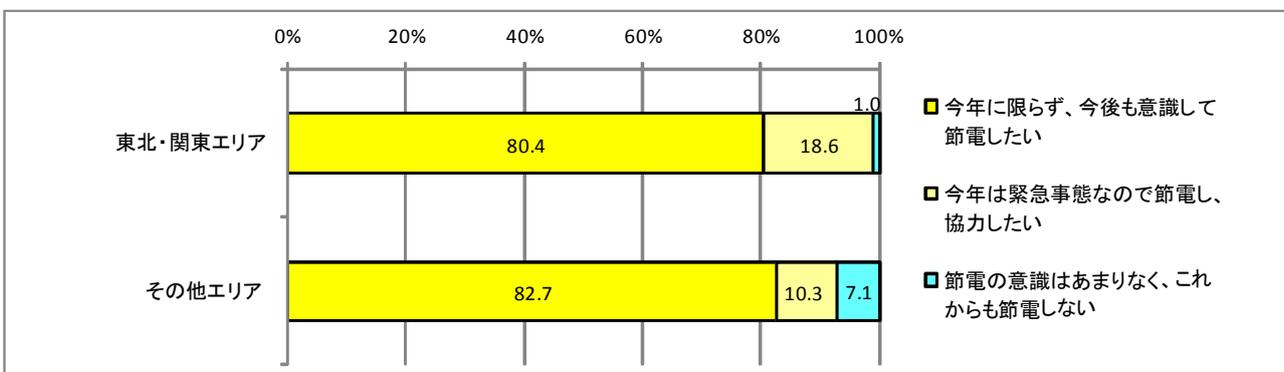


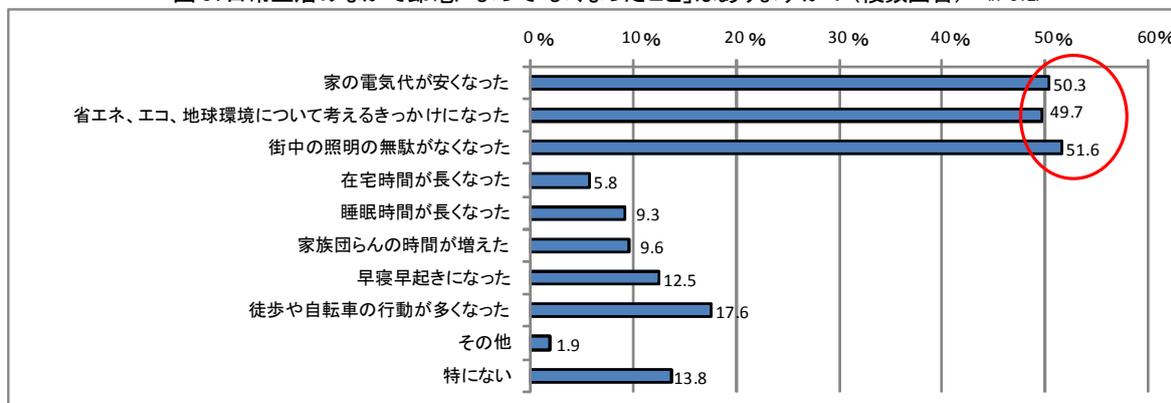
図2: あなたの今後の節電意識について、あてはまるものを1つお選びください <n=624>



I-2) 節電の影響、全体的にポジティブ傾向。「悪くなった／困ったこと」で“特になし”が約4割

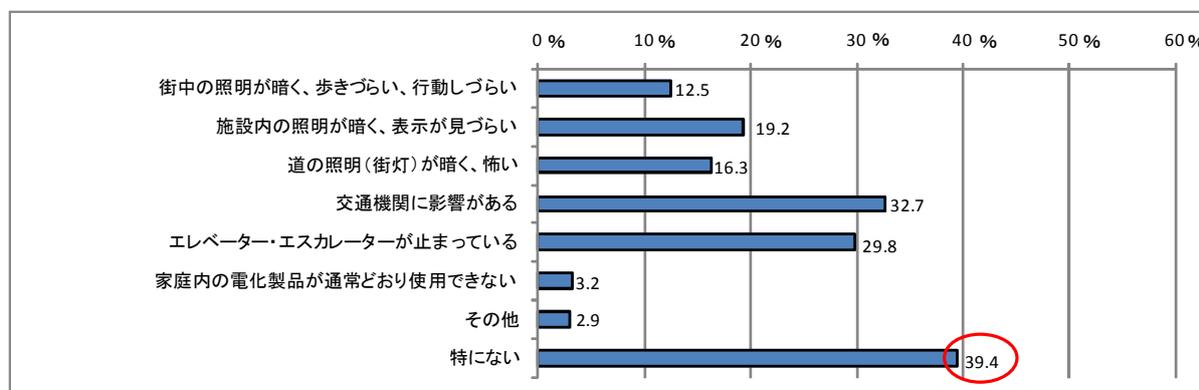
今回の節電は、人々にとってどのように捉えられているのでしょうか。節電の影響で日常生活のなかで「よくなったこと」「悪くなったこと」を、実際に計画停電などで大きな影響を受けた東北・関東エリアの人に聞いてみました。不便なことが多くなることが推察され、「よくなった」との回答は少ないだろうという予想に反し、意外にも今回の節電を前向きに捉えている人々の生活心理が明らかになりました。

図3: 日常生活のなかで節電によって「よくなったこと」はありますか？(複数回答) <n=312>



節電によって「よくなったこと」の問いに対しては、上位3位は「街中の照明の無駄がなくなった」(51.6%)、「家の電気代が安くなった」(50.3%)、「省エネ、エコ、地球環境について考えるきっかけになった」(49.7%)で、いずれも半数近くもの人がよかったと意識していることがわかりました。限りある資源の無駄使いに対する気づきや、電気のありがたみを知るきっかけと考え、節電の影響をポジティブに捉えているようです。また、意識の変化だけでなく、「徒歩や自転車での行動が多くなった」「早寝早起きになった」など、ライフスタイルの変化を前向きに受け止めている人も多いようです。

図4: 日常生活のなかで節電によって「悪くなった／困ったこと」はありますか？(複数回答) <n=312>



節電によって「悪くなったこと」の問いに対しては、1位「交通機関に影響がある」(32.7%)、2位「エレベーター・エスカレーターが止まっている」(29.8%)と移動に関する不安・不便に対する懸念が上位を占めました。特に、「エレベーター・エスカレーターが止まっている」と回答した人の内訳をみると、60～70代で39.4%、60～70代の女性に限れば44.2%と非常に高い割合になっています。

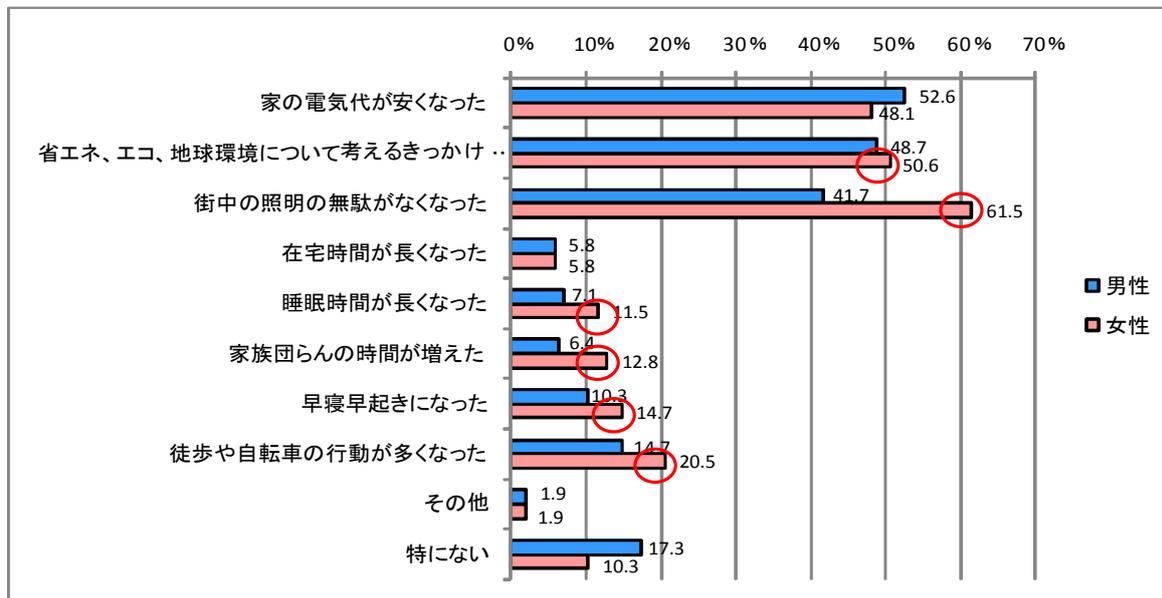
街中の照明については「よくなったこと」「悪かったこと」でそれぞれ回答がありましたが、5割以上の方が「よくなったこと」と捉え、照明を必要最低限にしても生活に支障を感じず、逆に今までの照明は「無駄が多かった、明るすぎた」と認識した人が多いと考えます。「道の照明が暗く、怖い」と答えた人は、全体が16.3%に対し、30代女性(26.9%)と60代女性(30.8%)の数値が突出して高い割合となっています。

上記の設問回答から、「よくなったこと」は具体的に自分事としてイメージし、明るい面を見つけ出して取り組んでいこうという姿勢が見て取れます。「悪くなったこと」に対しては実感が薄く、調査時点では“思ったよりも悪くなかった”という意識が強かったのではないかと推定しています。4割近くの方が「悪くなったことは特になし」と回答しているのはその現われとみています。これから、本格的な夏場を迎える中で、人々の意識も徐々に変化していくかもしれませんが、少なくとも現時点では、全体的に節電に対してポジティブに捉えている人が多いといえそうです。

I-3) 女性は男性よりも、「よかったこと」を多く見出し、ポジティブに捉える傾向

東北・関東エリアにおける、日常生活のなかで節電によって「よくなったこと」を、男女で比較してみました。複数の項目で、女性のほうが男性を上回る結果となり、女性は、節電の影響に対する“よい点”を多く見出し、よりポジティブに節電を捉えていることが伺えます。

図5: 日常生活のなかで節電によって「よくなったこと」はありますか？(複数回答) <n=312>



Ⅱ. 家庭での削減目標、切実な問題と受け止め、意識高まる

Ⅱ-1) 東北・関東エリアの4割は、家庭での削減目標の数値“15%”を認知

政府が呼び掛ける使用電力の削減目標について、東北・関東エリアとその他のエリアで比較しました。

「数値 (%) まで詳しく知っている」と答えた人は、東北・関東エリアでは43.3%、その他のエリアでは18.6%でした。また、使用電力の削減目標を意識している割合については、東北・関東エリアが82%、その他のエリアでは51.6%という結果になり、東北・関東エリアの数字が高くなっています。

東北・関東エリアの人は、震災後の計画停電を経験し、夏場のピーク時の計画停電実施を避けるため、節電をより切実な問題として捉え、使用電力量を意識して取り組んでいることが伺えます。

図6: 東北・東京電力管内の家庭・個人に対し、夏期のピーク期間・時間帯の使用電力の削減目標を設けようとしています。あなたは、そのことをご存じでしたか？ <n=624>

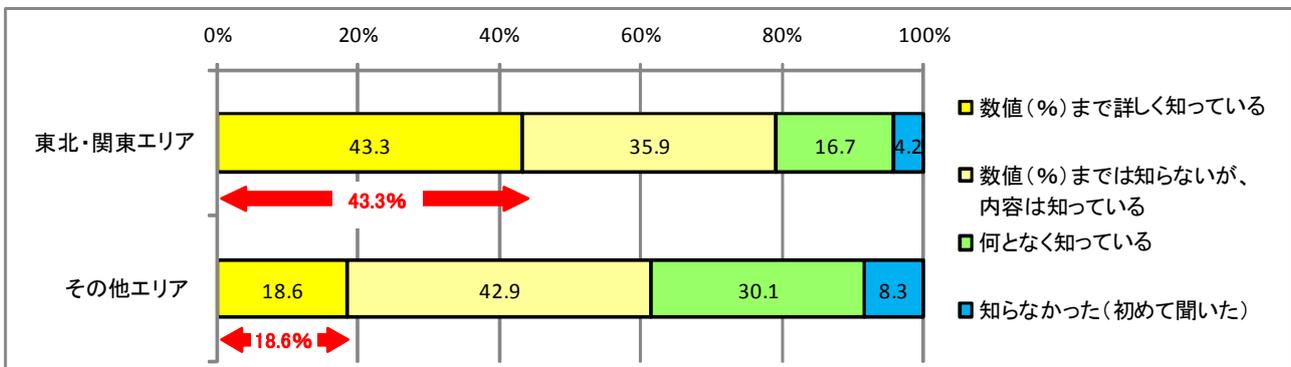
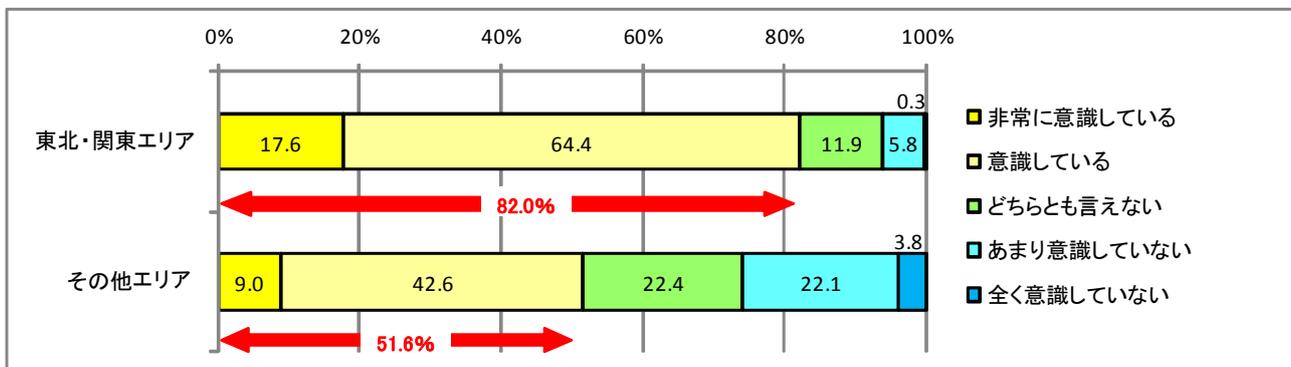


図7: 政府の使用電力の削減目標を、どの程度意識していますか？ <n=624>



Ⅲ. 削減目標 15%達成するには“節電ビギナー”に期待！？

Ⅲ-1) 震災後、家計節約よりも、社会貢献のために節電に取り組む“節電ビギナー”

I-1 (図1) の節電の意識に対する結果から、現在節電を意識している人に“節電ビギナー”がいることが分かりましたが、震災以前から節電を意識していた“節電ベテラン”とどのような違いがあるのでしょうか。アンケート結果からどのようなことが言えるのか、“節電ビギナー”と“節電ベテラン”の意識の違いをデータ上で調べてみました。

節電の理由を聞いたところ、ベテランでは「家計の節約」が1位(76.5%)と高くなっていますが、ビギナーでは3位(43.0%)にとどまり、数値に大きな開きがあります。また、震災の影響で「よくなったこと」については、ベテランは1位「家の電気代が安くなった」(60.5%)、2位「省エネ、エコ、地球環境を考えるきっかけになった」(51.0%)ですが、ビギナーでは順位が逆転し、家庭の電気代削減よりも、社会全体の電力供給を意識して節電していることが伺えます。

つまり、ビギナーは、これまで“家計節約”のためには節電してこなかったが、今回の震災を機に、“社会貢献”のためになら節電をしようと、節電を始めた人たちではないかと推定されます。

図8:あなたが節電をしている理由はなんですか？(複数回答) <n=591>

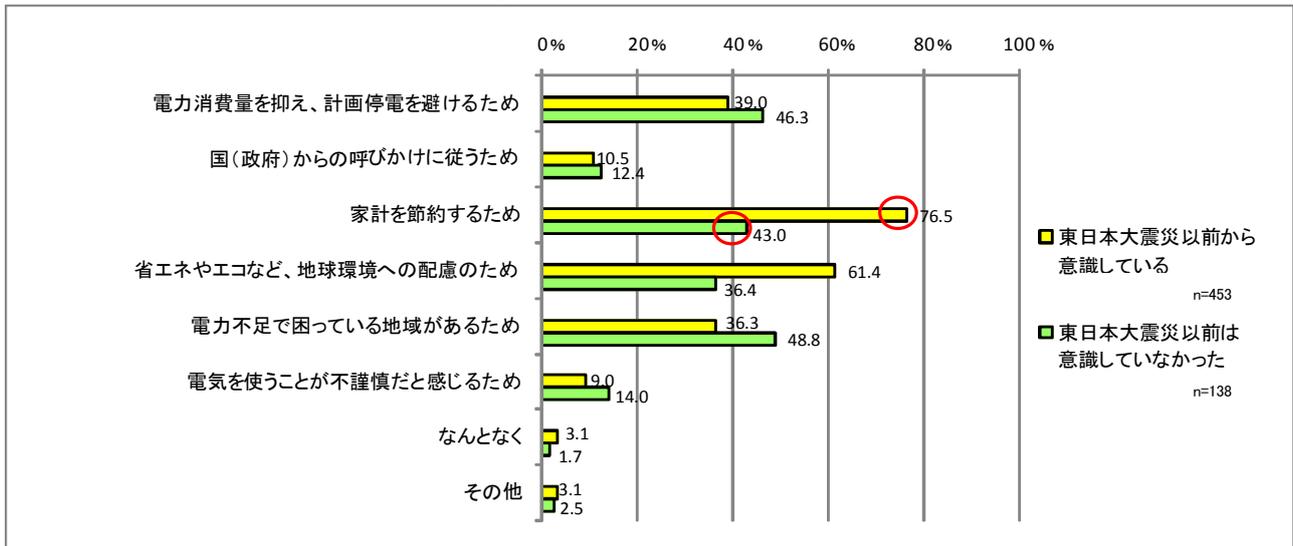
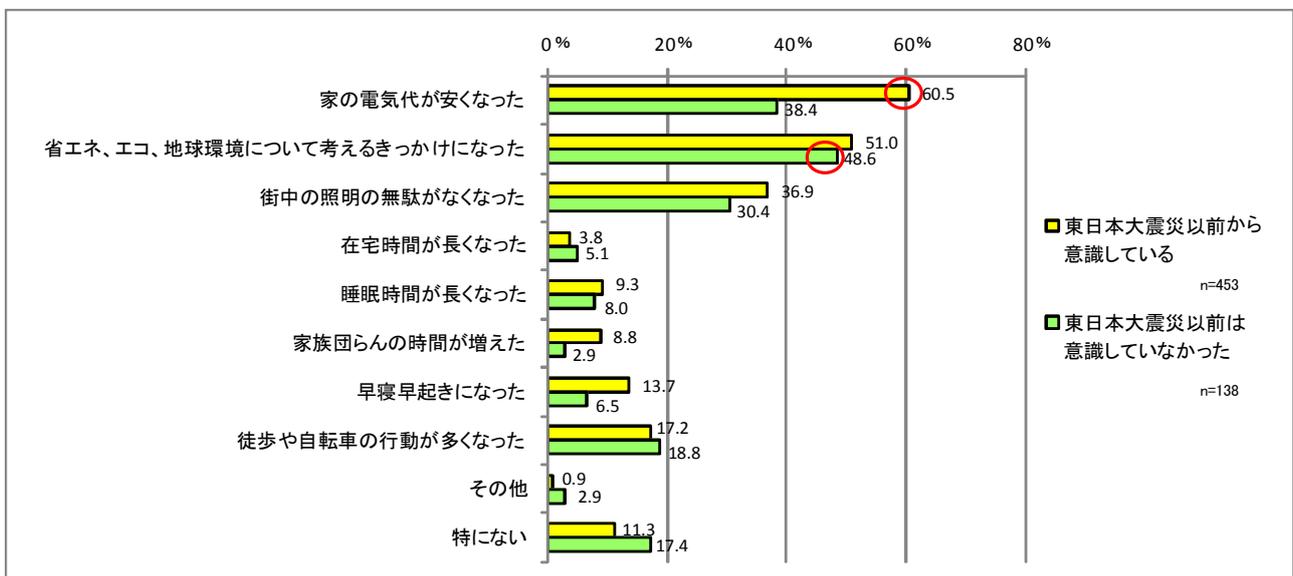


図9:日常生活のなかで節電によって「よくなったこと」はありますか？(複数回答) <n=591>



Ⅲ-2) 自己評価&目標低めの“節電ビギナー”が、15%達成のカギ！？

東北・関東エリアのベテランとビギナーでは、節電意識について、どのような違いがあるのでしょうか。

現在のご自身の節電貢献度を自己採点してもらったところ、ベテランは「70～89点」という回答が多かったの
に比べ、ビギナーは「50～69点」という回答が多く、ビギナーほど、自己評価が低いことが分かりました。

ベテランは、これまで様々な対策にチャレンジし経験が豊富で、節電に詳しいという自負があるのに対し、ビギナーは、どのような対策ができ、どの対策が正しいのかなど、節電についてまだまだ分からないことが多く、自分の節電対策に対して自信がない、といった控えめな姿勢が自己評価に反映されたものと考えられます。

また、今夏、実施できると思う使用電力の削減目標結果を比較すると、ビギナーは「10～14%」(36.5%)が最も多くなっています。つまり、ビギナーは、節電に対する経験・知識不足から、“「15%」を達成できないかもしれない”と感じる傾向があるといえます。

しかし、ビギナーは、これまで節電対策を行っておらず、まだまだ節電の余地があるといえます。そんなビギナーに、分かりやすい情報を提供し、高い目標を持ってもらうことが、政府の掲げる「15%」の削減目標達成のカギになるかもしれません。

図 10: あなたの現在の節電貢献度を自己採点すると、100点満点中、何点ですか？ <n=309>

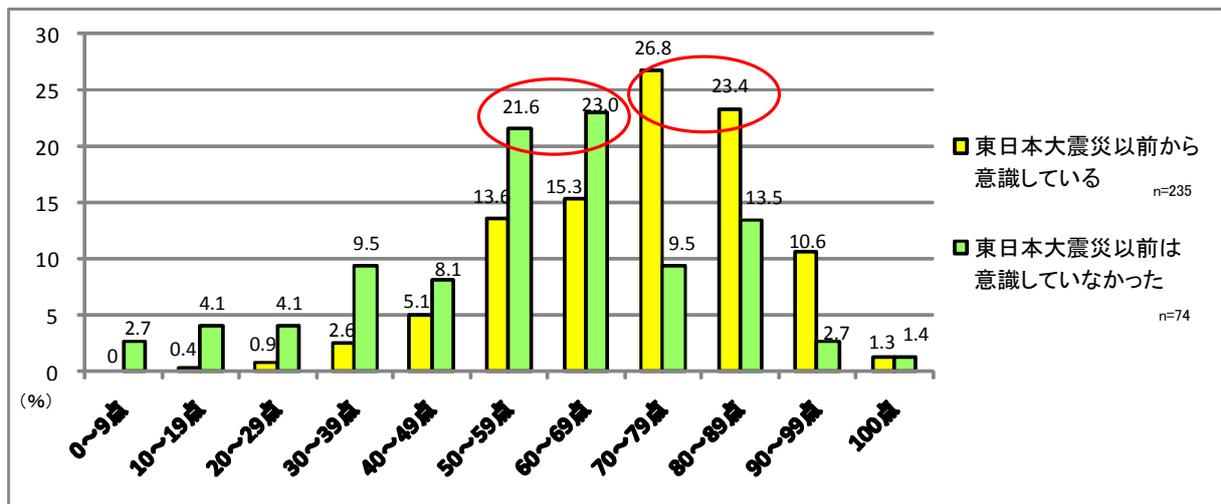
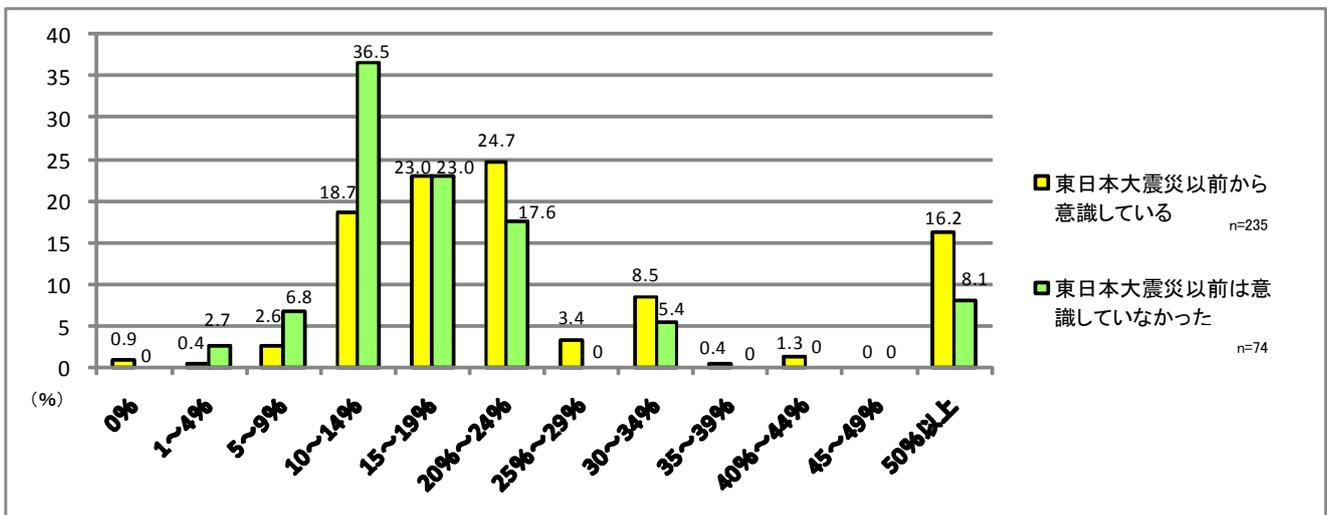


図 11: あなたが今年の夏、自分で実施できると思う使用電力の削減目標は何%ですか？ <n=309>



IV. 夏に向け、エアコンの節電効果に期待高まる

IV-1) 夏の節電対策、効果がありそう、トップは「エアコン」 89.7%

現在夏場の電力ピーク時に向け、様々な節電対策が推奨されていますが、人々は、どの対策が、節電への貢献度が高いと思っているのでしょうか。

代表的な節電対策の項目の中から、貢献度の高いと思われる順に1~3位までの順位をつけてもらったところ、最も多かったのは、「エアコンの設定温度を控えめにする・利用しない」(78.8%)でした。

また、電化製品別に、節電効果を聞いたところ、同様に「エアコン」(89.7%)が他の家電を大きく引き離し、次いで「冷蔵庫」(52.2%)、「照明器具」(38.5%)の順となりました。これは実際に家庭内での電力消費の多い3大家電と一致しています。

さらに「エアコン」「冷蔵庫」「照明器具」について、具体的に何%程度節電できそうかを聞いたところ、それぞれ順に、21.5%、11.6%、14.7%となっており、使用電力の多いエアコンに対する期待の大きさが裏付けられた結果となっています。

図 12: あなたが、今年の夏、節電への貢献度が高いと思う節電対策は何ですか？ 1位から3位まで、順位をつけてください。 <n=624>

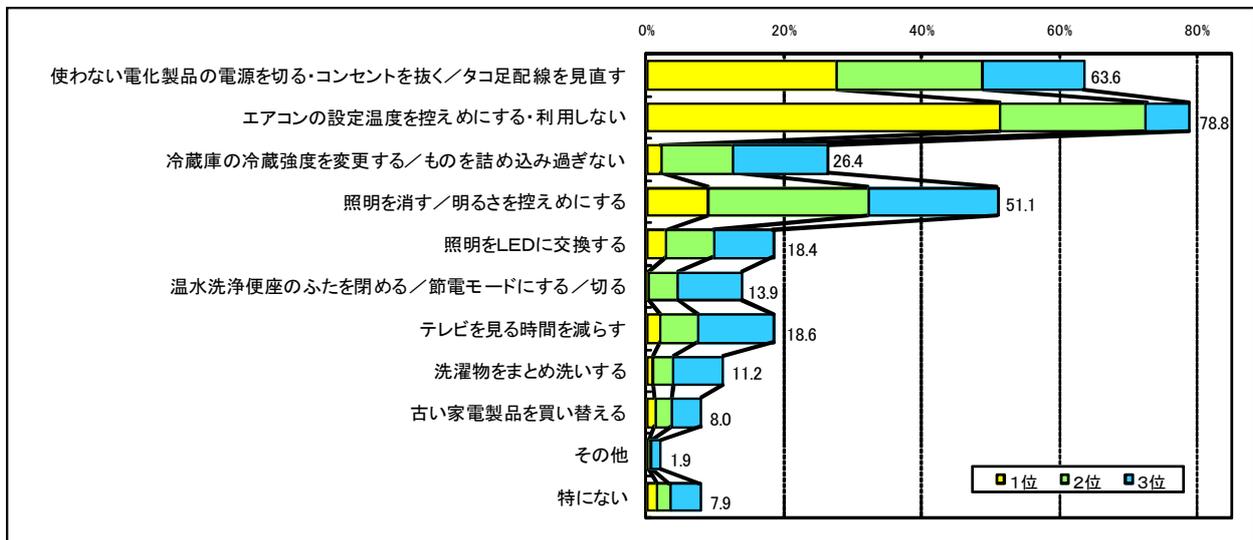
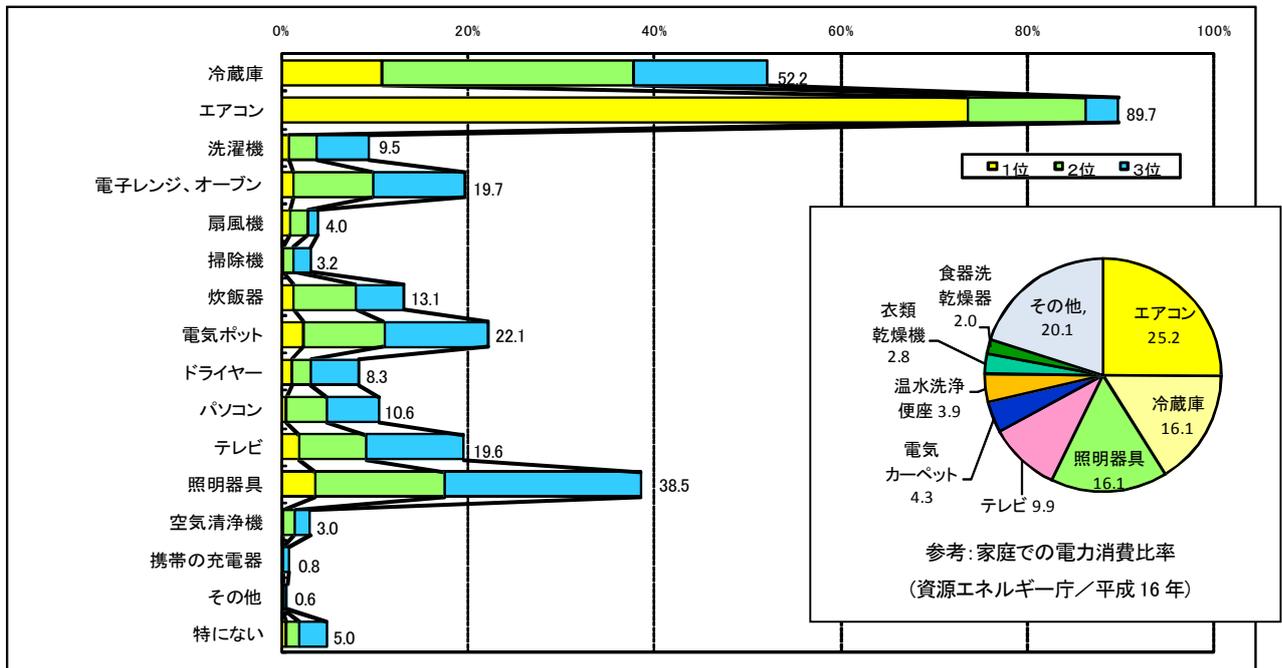


図 13: 使い方を工夫することで節電に効果がありそうだと思う電化製品ベスト3は何ですか？ <n=624>



【調査概要】

- 表 題 : 「今夏の節電と空気」に対する意識調査
- 調査主体 : ダイキン工業株式会社
- 調査方法 : アンケート調査 (インターネット調査による)
- 調査期間 : 2011年4月28日(木)～5月1日(日)
- 調査対象 : 全国の20代、30代、40代、50代、60代、70代の男女
- 回答人数 : 624名 (男性312名、女性312名) ※内訳は下表の通り

エリア	性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
東北・東京電力管内エリア	男性	26	26	26	26	26	26	156
	女性	26	26	26	26	26	26	156
その他エリア	男性	26	26	26	26	26	26	156
	女性	26	26	26	26	26	26	156
合計		104	104	104	104	104	104	624

※東北・東京電力管内エリア: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県
群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県(富士川以東)

※その他エリア: 上記以外の道府県、静岡県(富士川以西)

■報道機関からのお問い合わせ先

ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室

【本社】 〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号 (梅田センタービル)
TEL (06) 6373-4348 (ダイヤルイン)

【東京支社】 〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号 (JR品川イーストビル)
TEL (03) 6716-0112 (ダイヤルイン)

空気のライブラリ <http://www.daikin.co.jp/kuuki/library/>

エアコンの節電対策に関するサイト <http://www.daikin.co.jp/setsuden/index.html>